



文学部長  
都筑 学  
Manabu TSUZUKI

## 充実した大学生活を送るコツ

皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、期待と不安という感情を同時に抱きながら、大学生活を始められたのではないのでしょうか。

高校までとは違い、大学では授業の時間割を自分で決めなければなりません。部活やサークルもたくさんあり、どれに入ろうかといういろいろ迷うことでしょう。通学するのにも、最初の頃は結構疲れます。ひとり暮らしだったら、食事の準備や洗濯、掃除も負担になるかもしれません。

このように、大学生活には大変なことがたくさんあります。でも、大丈夫。充実した大学生活を送るコツをそっと教えてあげましょう。そのコツとは、物事の軽重や後先をしっかりと判断して行動することです。

一日は24時間しかありません。それは誰にでも平等に与えられています。睡眠、食事、授業などに必要な時間を除くと、皆さんが自由に使える時間はそんなに多くはありません。一方で、レポートや課題など、大学生活でやらなければならないことは、これからたくさん出てきます。サークル、アルバイト、趣味など、あなたがやりたいと思っていることもあることでしょう。どれに最初に取り組み、次に何に取り組みのか、その順番を決めて実行することが肝心です。しっかりと価値判断をして、重要だと思ものから片付けていくことが求められます。

大学卒業までに、自分がどんな人間になっていたのかという目標を定めれば、物事の軽重や後先は自ずと決まってきます。大学生活という与えられた時間を有効活用して、多くのことを身につけていくことを願っています。私たち教職員は、皆さんが成長していく様子を見守っていきたいと思います。



総合政策学部長  
松野 良一  
Ryoichi MATSUNO

## 今、そこにある問題を解決する— 総合政策って何?

総合政策学部の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんはこれから、いろんな人に、「総合政策って何するところ?」と何十回も聞かれることになるでしょう。私は100回以上、聞かれました。

簡単に説明すると、こうです。いろんな分野の学問を、幅広く学びます。「教養」を身につけてください。「語学」は、英語を入れて10語種あります。アジアの言語が充実しています。しかし、外国語大学ではありません。

教養を身につけ、語学力を鍛え、それで何をやるのでしょうか?

総合政策学部とは、国内外における社会問題の解決や社会現象の解明を目指し、グループワークで知恵とアイデアを出し合い、現地調査やインタビューなどを踏まえ、最終的に解決のための政策提言を行うというトレーニングをする学部です。

これまでの大学が、象牙の塔に閉じこもり、実際の社会問題の解決に貢献してこなかったのではないか、という反省から生まれた学部ともいわれています。

先輩たちが取り組んだ事例を紹介します。

まず、国際系です。①カンボジアの孤児院の孤児は雇われた子どもだった②フィリピンのゴミ問題と新しいソーシャルビジネス③タイのヒット映画「メナムの残照」に描かれた日本人兵士の真相④カンボジアにおける地雷被害者への支援と課題⑤台湾二二八事件と中央大学卒業生⑥北方領土問題に関するフィールド調査などです。

政策系では、①3.11以後のエネルギー政策はどうあるべきか②医薬品のネット販売は全面解禁すべきか③非正規雇用から正規雇用への政策④地下街の老朽化と地下街の存在意義⑤忘れられる権利—ネット社会の法制度⑥「おバカ投稿」の因子分析的研究などです。

このように、大前提として、社会問題や現象、謎などがあり、その解決や解明のために、グループでアイデアを出し合い、学生が自主的に取り組むのが総合政策の特色です。

このため、総合政策学部では、「現場」を重視します。学問分野を幅広く学び、フィールドに行き関係者から話を聞き、調査を行って、問題解決や解明を図ります。そういうトレーニングを繰り返すことによって、学生たちの総合的な能力を開発し、自信につなげていくことを目標にしています。

さあ、皆さん。教養と語学力を持って、「今、そこにある問題」に取り組んでみましょう!